

—わがまち歴史探訪、足もとの文化遺産への誘い—
ミュージアム都留からのお知らせ

甲州俳諧展 —甲州俳諧の展開—

「都留市ふれあい全国俳句大会」「都留市市民俳句かるた大会」などの開催や市内各所にある芭蕉句碑をみると、現在でも都留市は俳句が大変盛んな土地と言えるでしょう。その灯をともしつかけの一つが、天和3年（1683年）の



「松尾芭蕉の谷村滞在」という出来事であったことは間違いありません。これまで都留の人々は、その灯を大事に育み、大輪の俳諧文化を开花させていきました。

100年以上たった文化6年（1809年）、田野倉に住んでいた運水うんすいという俳人が、ひもかがみきゅうしゅうよにんしゅう『氷面鏡九十四人集』という俳書を刊行します。これは、芭蕉が田原の滝で詠んだとされる「勢ひあり垂氷きえては滝津魚」という句を記念して編集されたもので、田原の滝近辺に住む人々から句を募っています。句には作者の絵姿がついており、一般の町人や文人らしき身なりの人物に交じって、武士や僧侶、女性の姿なども見え、さまざまな人々が、身分や職業にとらわれずに俳諧を楽しんでいた様子がうかがえます。

のとかさは心にものゝなき日哉
運水(氷面鏡九十四人集より)

会期 1月21日(日)まで
開館時間 午前9時～午後4時30分
会場 ミュージアム都留 第二展示室
休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌日が休館)、第3火曜日、祝日の翌日
※年始の休館日 1月1日(月)～1月3日(水)
観覧料 入館料 一般 300円(210円)
高・大学生 200円(140円)
小・中学生 100円(70円)
※()内は20名以上の団体料金
※チケットは増田誠美術館と共通券となっています。

問合せ ミュージアム都留 ☎(45)8008

★関連イベント

○拓本教室

市内にある芭蕉句碑の拓本を採ってみましょう。裏打ちも行います。

日時 1月7日(日)午前10時～午後4時
持ち物 軍手、木綿の手ぬぐいかタオル2枚
参加費 1,000円程度(材料費)
定員 15名 ※事前に申し込みが必要です。
指導 渡辺長重(都留書道連盟会長)

勝山城のなぞに迫る！

前は勝山城の築城時期に焦点をあてましたが、今回は勝山城がいつ使われなくなり、現在までどのような変遷を追ってきたのかに焦点を当ててみたいと思います。

勝山城が使われなくなるのは、当時の郡内領主の秋元喬朝が武州川越に転封になった宝永2(1705)年と考えられています。甲斐国誌には廃城の文字がみえ、以後はお城として機能していなかったと考えられます。その後、谷村藩は幕府の天領になり、明治に入るところにお城山の土地は村持ちになりました。このことから、お城を使わなくなってからおおよそ300年経過していることが分かります。300年の間に人の手が加えられたり、自然に崩壊したりして現在の姿は300年前の姿とはだいぶ異なっている可能性が考えられます。

例えば、谷村城下絵図をみると勝山城から現在の市役所・谷村第一小学校側に橋が架かっているのがみえます。これは内橋とよばれていますが、現在は失われてしまっています。300年前、それ以前の勝山城の姿がどうか調査するため、勝山城跡学術調査では発掘調査を実施し、文献・絵図資料から当時の勝山城の姿に迫ろうと調査しています。調査の成果については、広報やミュージアム都留のホームページなどで随時お知らせします。

増田誠美術館

増田画伯が描く万葉の歌人達

～歌人賛歌～

会期 1月4日(木)～3月4日(日)
開館時間 午前9時～午後4時30分
会場 増田誠美術館(ふるさと会館2階)
休館日 月曜日、第3火曜日、祝日の翌日

1984年4月に日本での展示会のため、夫と私はフランスから一時帰国しました。その折、私たちは人間ドックを受診しました。その結果、胃潰瘍と告げられた夫は胃癌手術とも知らず医師の言葉を信じ術後の療養に励みました。

なお、私たちはその1年前から、旧知の寒鷗先生主宰「書真」誌の購読会員となり「吞舟之魚」から、号を「吞舟」とし、時折、書真会にお邪魔してもつばら墨で絵を描き、また「字」も書き、ときには寒鷗先生と合作の絵巻を楽しみました。

術後の滞日が長引き、その間「日本・中国の故事」「祭」や「仏画」また油彩でもライフワークにしていたドン・キホーテなどを画題にして墨彩画に熱中しました。一方、万葉仮名を習字する傍ら、その歌人の人物像にも発想が湧き「百人一首」を描きました。今回の展示は、晩年の増田誠が体力の限界と戦いながら、油彩画のみならず多方面に渡って試みた作品の一部「歌人讚歌」です。墨彩に寒鷗先生の画賛の作品や、菅沼露田氏の画賛などあります。

「万葉の世界」をぜひお楽しみください。

増田誠美術館アドバイザー 増田曙美